

旗の存在



檀家さんでの午前中のお参りが終わり車で帰寺の途中に「回転寿司」の前をよく通ります。なにせ岐阜県は海無し県で人口に対する寿司店の数を山梨県と共に競っているほど多い。今日も休日のお昼時、「スシロー」の前の交差点で信号待ちとなりました。

コロナ禍でも駐車場は満車状態です。一台の車から家族がぞろぞろ降りてきました。小学生らしき次男は自然体で楽しそう。中学生らしきお兄ちゃんはスマホを見ながらめんどくさそうに歩いています。いつもは親と行動を共にしていませんが回転寿司の魅力に負けたという感じ。そして、お祖母ちゃんはどうと…！普段は少し腰を曲げて歩いているのですが、この時ばかりはと背筋を伸ばし、胸を張り入口の一点を見つめて、「私じゃこれから、お寿司を食べに行くのだよ！」と堂々と歩いておられます。まるで観閲式で行進する自衛隊さんのように威厳さ誇らしさを感じます。以前、中国の王毅に何も言い返せなかった体たらくな茂木大臣には見習ってほしいほどの立ち振る舞いです。車からお店入口に至るわずか数 10 トールの距離の間に個々の喜びが表現されます。確かに、いくらお寿司が一皿百円の時代とはいえ、海の憧れが宿る岐阜県人にしてみれば、お寿司を食べにお店へ行くという行為はやはり「ハレ」の日なのです。では何故、私も含め年配者は茂木大臣にも手本を示すほどの凛々しい態度を「ハレ」の日に示すのでしょうか。

以前、それについて考えたことがあります。「お子様ランチ」の「旗」。私の幼少の頃、「お子様ランチ」は確かに「ハレの日」の食べ物でした。たまに連れて行ってもらえる百貨店の食堂で食べたものです。山型のケチャップライスの上には「旗」が凛々しく立っていました。今日は「ケの日」ではなく「ハレの日」だと一線を引いてくれるのが「旗」の存在でした。現在の豊かな食生活には「ハレの日」が薄れてしまっているでしょう。



同じくして、最近祝日に「国旗」を玄関に出す家庭がほとんどありません。現在の日本人は国旗に対する思いが他の国より薄いそうです。たぶん全国で祝日の日本国旗よりイタリアンレストランに掲げられているイタリア国旗の方が多いことでしょう。私も最近知ったのですが、イタリアンレストランの店先にイタリアの国旗が立ててあることが外国から来た観光客にはとても不思議な光景だそうです。これは「日本の常識、世界の非常識」的な行為で、国内で他国の国旗をむやみに掲げると国によっては法律にふれ厳格に処



罰されることもあるそうです。それをして逮捕された日本人がいるそうです。それくらい国旗には敬意をはらわないといけません。

ちなみに、私は住職として毎朝厳粛に本堂正面で国旗と佛旗の掲揚をしています。俊徳丸